

令和7年度第1回北海道旭川聾学校学校運営協議会 議事録

日 時 令和7年(2025年)6月15日(月) 10時30分～12時00分
場 所 北海道旭川聾学校 会議室
出席者 学校運営協議会委員
水上明子、鳴海繭花、瀧野雅一、林綾香、中村博司、澤恵子、門眞義弘
説明者
上川教育局社会教育指導班 田阪主査
運営
田中康崇、森山正大

1 開式の辞

2 役員選出

3 学校長挨拶

今年度に係る学校経営方針及びグランドデザインについて(校長)
レジュメ及びスライドにより説明

4 説明

「地域学校協働活動について」(田阪主査)
レジュメ及びスライドにより説明

5 説明・熟議

意見交流・質疑応答
学校に関すること、地域と学校とのつながりについて

○田阪

学校が地域と連携していきたいといった場合どのようなことができそうでしょうか？

○瀧野

質問の回答とは違うかもしれないが、夏休み中に親子での工場見学を実施しました。洗濯物を持参いただきアイロン掛け等の作業を体験してもらっていた。当方としては夏休みの自由研究の題材になればと思い企画し、毎年40名前後の参加者がありました。

当社は保育園もありますが保育園では世代間交流も重要ということとスタッフの子息も在籍しているため、ハロウィンにあわせて保護者等の働いている職場見学を兼ねた行事を行い各工場を回りお菓子をもらって、その後保護者等が働いている姿を見学するというを実施している。

また、近所の老人福祉施設、敬老会等に協力いただきクリスマス会や七夕会等も実施している。

会社で通勤バスを保有しているため移動手段には不自由せず、いろいろと活動の場を増やすことができている。

○瀧野

イベントを実施する場合土日祝日が多いと思うが、そちらに聾学校として参加は可能でしょうか。

●校長

学校が実施している平日の活動に参加してほしいと考えており、来校しての協力を希望している。体験活動をする場合は校外の活動もあるが基本的には平日の教育活動を本校で一緒に実施することを想定している。

○鳴海

旭川市内の専門学校は中学生の見学受け入れは実施している。本校にも看護体験であるとかリハビリの学科もあるのでリハビリの体験等で中学校の受け入れを実施している。

●校長

本校生徒の受入れも可能でしょうか。

○鳴海

可能だと思う。

○鳴海

医療系専門学校になるとライセンスを取得できるかどうかとなる時に聴覚障がいがあると障がいの程度が問題となる。また、看護師とはこういう仕事だとかリハビリテーションとはこういう仕事なんだとかいうことを体験してもらうことは可能です。旭川市内には医療事務の専門学校もありますし調理系、理美容の専門学校も体験受入れを実施しています。北海道私立専修学校各種学校連合会というものがあり、そこへ問い合わせれば受入れ可能な学校を教えることができます。現在本校（北海道保健福祉専門学校）が事務局となっており、中学校がいろいろな専門学校へ見学に行くお手伝いをしています。また、修学旅行のコースとして組み込まれていることもあり、道東方面の中学校がバスで旭川へ来て希望する生徒を数か所の専門学校で降ろして体験し、終了後回収してその後動物園、サイパル等を見学し深川の青年の家で宿泊するというのをやっています。ですので、専門学校の見学ということでは受入れ可能だと思います。

●教頭

専門学校の体験の受入れというのは以前からあったものでしょうか。

○鳴海

以前からもありましたが、本校で一気に増えたのは新型コロナウイルスの頃からです。何故かという看護体験であるとか医療系の体験というのは以前は病院で受け入れていましたが、新型コロナウイルス以降は外部の人間を受け入れることが不可能となったため、専門学校で実施するというのが増えたのが原因かと思います。他校では今までも普通にあったと思います。

○水上

市役所も市民との協働を大事にしているが、私が所属している障害福祉課というのはサービスの提供を行っている部署なのでむずかしい部分がある。

市役所全体で協働ということを見ると、「市民の企画提案による協働のまちづくり事業」というものがあり、市民と市それぞれが強みを生かして、旭川市が抱える課題の解決を図っていくとするもので、市民団体や民間企業等から課題解決に向けた事業提案を受け、双方の協働により事業を実施するものです。

「あさひかわっ子☆夢応援プロジェクト」というものもあり、中学生がこういうことをやりたいというのを作文にして応募してもらい、内容を審査して選考された企画を実現を支援します。数年前に私が携わった事例ですがスキーが好きな子どもが旭川の冬は雪が多く車の事故が多いので、スキーはエッジを効かせて止まれる。その技術を生かして車が安全に止まれる技術を開発したいという人がいて、実際にタイヤのテストコースや自動車メーカーへ行ったら専門家と話をするという企画がありました。

小学校高学年を対象にした「子ども農業体験塾」というものがあり、市内の農家の協力の下、米農家、畑農家、酪農家等へ半年間通い続け米農家の場合田植えから始まり草むしり、収穫を体験し、収穫後は収穫祭ということで皆で料理を作り食べるという事業も実施しています。そこには教育大の学生がボランティア授業として参加し、子どもの接し方を教えたり、子どもの相手をしてくれたりするので農家の方も助かるという協働ができており、よいことだと思っている。

また、今年度は豊学校の幼稚部に在籍していた方が一般事務で採用され、頑張っています。

○澤

本町内会は世帯数も少ないし子どもが多いのは我が家くらいで4名の孫と同居している。近所に少しの差で違う町内会になっている同級生がいる。子ども会というのは私の子どもの頃からありませんでした。前会長の頃に学校からの提案で地域のごみ拾いを一緒にできないかということがあったと思う。

●校長

今も児童・生徒会と寄宿舎それぞれで実施しているので、また相談させてください。

○澤

町内会も役員の担い手がなく昨年、前会長が退任した後は1年ごとの輪番制になり、今年度会長になったが、何ができるということとはなかなか言えないところである。前会長は剣道に特化されていて、そこで協力できていたところがあると思うが、自分は何ができるかと考えた時に、新聞販売店があるのでそこで折り込みの仕事をさせてもらう、高齢者施設、自立施設の方でボランティア参加を希望される方がいれば昔の遊び等を施設と協力して実施することができるのではと考えています。

○中村

地域として何ができるかということは考えている。個人的には町内会が学校に面しているのもあり、昨年もお話したが、登下校時にあわせて声掛けを行ったり、なるべく外にいたりしている。その際、子どもたちが保護者等と一緒に声を掛けてくれたり手を振ったりしてくれ、とてもかわいく思っている。

町内会の行事として学校に声を掛けられるものがあるかと考えた時に残念ながら無く、町内会ではなくこの辺は春光西地区に該当するのでその中の市民会や社会福祉協議会の行事には来ていただけるのではないかなと思う。市民会でいえば夏祭りや冬祭りをやっているのもその際に声を掛けることはできるが、残念ながら行事は日曜日になるので、そこはむずかしい部分があるのかな感じています。

○林

自分の所の登下校は送迎なのであまりかかわりが無い状態ですが、外で子どもたちが学校が終わった後に遊んでいて1人で自転車で来て帰るとか歩いて帰る子どもがいたり保護者等がいなくて大丈夫かなと心配に思うことが多いので、お話のあった声掛けであるとか見守り等は続けていただけると、ありがたいと思う。

●教頭

過去に近所に住んでいる子どもはいて、地域の中で放課後学校に遊びに来て寄宿舎に残っている子どもと遊んだりということはあった。

聴覚障がいばかりにいく障がいなので、どうやってかわかっていったらいいのかコミュニケーションをとったらいいいのか分からず一歩引かれる方が多かったと思う。手話じゃないと伝わらないかもしれないと思い踏み込めないことがあったと思います。でも声をかければ伝わるし、危ないといえれば危ないことを止めます。そういったところを地域に見ていただいて聴覚障がいというものは知らないとうかがわったらいいいのか分からないという方が多いと思うが、そうでもないということを地域等で広めていただけると非常にありがたい。

我々も聴覚障がい幅広い理解につながるように取り組んでいる最中ですので、お力添え、ご助言をいただけるとありがたいと思います。

●校長

学校運営方針については既にお示ししていたので承認いただいていると思います。今回グランドデザインもお示ししたので承認していただきたい。

本校は寄宿舎がある。帰省する子が多く土日の地域の行事の参加は、学校近くに居住している子は参加できるがそれ以外の子は参加できないということになってしまいうので、そこがむずかしいところだと思っています。

今回提示した「旭川豊学校サポーターズ」を是非後押ししていただけるとありがたいと思っています。地域の方には町内会等でまとまる必要は無く、個人個人での参加でいいのでやってみたいという方がいたら是非登録していただきたい。学校ホームページで募集しますので、できましたらお知らせしますので、よろしく願います。登録していただきましたら、聴覚障がいについての研修もありますし、手話体験もあるので、それだけでも聴覚障がいへの理解につながるものと考えています。

7 閉式

ア 学校長挨拶

イ 連絡事項

今後の学校運営協議会について

8 学校案内